

# IFRS対応の コンサルティング

*Hiro Business Solutions*

<http://www.hbs.gr.jp/>

- 経済がグローバル化する中、会計基準の相違を調和させることが世界的な懸念でありましたが、ついに、アメリカが国際会計基準採用に向けてのロードマップを2008年に公表しました。このことを受け、日本でも国際会計基準を適用していく見込みであることが金融庁より公表（2009年6月）されました。
- 会計基準が変わると、必然のこととして業務やシステムへ影響を及ぼします。しかしながら、会計基準が変わることに対応する単なるシステム改修は会社にとってメリットが少なく、費用対効果を見込めないシステム投資は消極的になってしまうものです。
- IFRS適用によるメリットを見出せない、適用時期がまだ先である、というような状況が伺えますが、IFRSを適用していくことは時代の必須で大勢を占めているのが実情のようです。そうであるならば、IFRS適用を前向きにとらえ、会社にとってメリットを見出していくシステム改修の検討をすることが得策と思われます。
- 当書では、IFRS適用に対応するシステム改修を単なる基準変更対応だけでなく[独自の業務プロセスを見直すことによる業務の効率化](#)を図る会計システムの改修検討や[マネジメントアプローチ適用に伴うグループ経営管理システムの再検討](#)をご支援させていただきます。

効率的にIFRSに対応でき、経営管理にも役立つ  
新会計システムのグランドデザインを描く

## IFRS適用で実現したいこと

IFRSに対応できるためのシステム改修

ローカルシステム（税務）との共存

会計処理方針の統一  
グループ共通経理システム

会社固有の独自業務プロセスの排除

マネジメントアプローチへの対応による  
新グループ経営管理システムの構築

## システム刷新で実現したいこと

決算早期化の実現

会計業務の効率化

情報の共有と検索能力の向上

勘定科目や組織コードの統一

運用コストの低減

## 国際会計基準IFRSが企業に及ぼす影響は広範で、全社的な取り組みが必要

### 会計上の変更

- 新しい会計基準の追加または現行の母国会計基準の変更
- 会計方針の決定、勘定科目一覧表のレビュー、開始(期首)貸借対照表の作成、外部および内部向けのレポーティング(JGAAP、USGAAP、IFRS、税務・規制当局向けレポーティングなど)

### 人材スキルの変更

(新たなビジネス言語)

- 企業内外とのコミュニケーション手段としての必要性
- 判断基準としての必要性
- 研修の必要性
  - ・企業内の全階層に対する研修
  - ・財務・会計担当者限定されない

### 業務プロセスの変更

- 既存の業務プロセス(販売管理プロセス、有形固定資産管理プロセス、研究開発プロセスなど)の改善
- 新たなプロセスの構築
- 予算作成と実績管理
- 内部統制(J-SOX)の再評価

### システムの変更

- データの入手と処理に関するシステム要件
- 新たなシステム構成要素、データウェアハウス、計算エンジン
- 経営管理情報システムの再調整
- 複数の会計基準への対応能力

### ビジネスの変更

- 財務およびビジネス上の影響、借入契約条項、契約、報酬、取引など
- 業務管理(KPI、経営情報管理、報酬・賞与、予算と実績管理、投資家予想)

# IFRS各基準の分類(業種や規模で影響が異なる)

	会計周辺業務	単体会計	連結会計	開示業務
グループ 展開企業	為替レート変動の影響	ジョイント・ベンチャーに対する持分 関連会社投資	企業結合 連結会計	関連当事者の開示 連結及び個別財務諸表
セグメント別報告				
全社共通		退職給付制度の会計及び報告 従業員給付 引当金、偶発債務及び偶発資産 有形固定資産 リース	初度適用 法人所得税 借入費用 キャッシュ・フロー計算書 資産の減損 保険契約 株式報酬 会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬	財務諸表の表示 1株当たり利益 中間財務報告 後発事象
会社に応じて	収益認識 たな卸資産	金融商品：開示及び表示 金融商品：認識及び測定 売却目的非流動資産及び廃止事業	投資不動産	金融商品—開示
業種固有	無形資産 工事契約	鉱物資源の探査・評価 農業	超インフレ経済下における財務報告 政府補助金の会計処理及び開示	銀行及び類似金融機関の 財務諸表における開示

## 財務諸表に影響を及ぼす可能性のある項目(例)

- ✓全部のれんの計上
- ✓のれんの非償却
- ✓過去の企業結合に関する再評価
- ✓連結対象範囲
- ✓支配の喪失を伴わない持分の減少
- ✓段階的な支配獲得
- ✓固定資産の再評価
- ✓残存価額、耐用年数、減価償却方法の見直し
- ✓研究開発費の資産計上
- ✓のれんの減損
- ✓投資不動産の公正価値評価
- ✓リース会計
- ✓減損や棚卸資産評価減の戻し入れ
- ✓政府補助金による資産取得
- ✓資産除去債務
- ✓退職給付債務
- ✓有給休暇引当金
- ✓リストラ引当金
- ✓自己株式の資本からの控除
- ✓収益認識
- ✓工事契約(進行基準)
- ✓棚卸資産
- ✓ストックオプション(株式報酬)
- ✓借入費用の資産化
- ✓異常損益項目
- ✓金融商品会計
- ✓無形資産の繰延税金
- ✓廃止事業
- ✓機能通貨の外貨換算
- ✓共同支配企業(ジョイントベンチャー)
- ✓過年度遡及修正

## 制度で求められるものさえ開示すればいい との従来の発想

ディスクロースは面倒だけど  
会計士に文句言われないうちにすれればいいか

その結果

- グループ会社から思った通りのデータ集まらない
- 配賦のあり方が定まらず、配賦処理が大変
- 数字を作っても誰からも質問がない  
(理解されていないか、無関心なのか)
- 制度と管理で取り扱うデータが異なる
- 〇〇別、△△別、××別、色んな切り口のデータ分析を要求される

## マネジメントアプローチによる セグメント情報

役員会で報告される事業分類は何か  
それぞれの事業別責任者は明確になっているか

これから必要なこと

- 経営管理に必要な管理項目
- 経営管理の積み上げが制度上のセグメント
- 事業区分ごとの有益な配賦の実現

従来通りの開示手段であれば  
管理と制度のねじれは永遠に解消されない

**「制度でしようがないから開示をしよう」との考えの刷新が必要！**

基準内容を認識する

- a 基準の内容の理解(コンセプトなど)
- b **変更の内容を箇条書きでリストアップ**

これが  
大事!

**<気をつけよう>**  
**たった一言の**  
**国際会計基準対応!**  
**IFRS対応!**

変更への対応方針の検討

- a 当社に該当する内容か
- b 取引量はどのくらいあるのか  
(システムで対応すべきものか)

**<悪い例>**

**基準変更**に翻弄される

- 「何が」「どう」変わったのか理解していない
- 噂、風評、他社例ばかり気にする

システムでの対応を決める

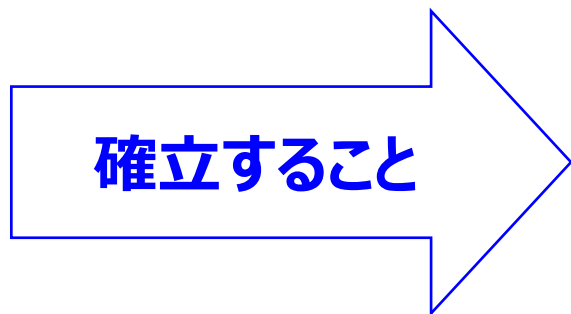
- a 業務プロセスをどうするのか
- b システム変更の検討
- c 改修か刷新か

**「国際会計基準対応」!**との宣伝文句

- 「何に」「どう」対応しているのか、さっぱり不明



IFRS適用によって財務諸表数値がどう変わるのかを把握し、開示戦略を確立する



- ✓初度適用時の免除規定の活用
- ✓選択適用の余地がある任意適用項目の取捨選択



当書の内容にご関心がある場合  
お気軽にご連絡ください。  
全国どこでも伺います。

サービスの詳細、  
セミナー情報などは  
ホームページをご覧ください

TEL : 03(6715)0456

〒107-0062  
東京都港区2-2-15  
ウィン青山942

Hiro Business Solutions 株式会社

URL : <http://www.hbs.gr.jp/>

Mail : [info@hbs.gr.jp](mailto:info@hbs.gr.jp)